

高速道路調査会研究発表会で広域避難者の移動に関する研究成果を報告しました (2017/9/29)

テーマ：災害の社会的影響，広域避難，移動

場所：AP 大阪駅前梅田 1 丁目

URL：<https://www.express-highway.or.jp/jigyo/info/gijyutsu/2017/03/>

公益財団法人高速道路調査会は高速道路の価値と効用を高め、社会の持続的な発展と人々の豊かな暮らしの実現に貢献するための調査・研究活動を行う機関で、毎年度、高速道路に関連する社会的、経済的、技術的な研究テーマに対する研究助成を募集しています。

当研究所の奥村誠教授（人間・社会対応研究部門）と井内加奈子准教授（人間・社会対応研究部門）は、同調査会の平成 28 年度の研究助成を受け、「広域避難者の移動における高速道路の役割に関する研究」を実施しましたが、その研究成果について、2017 年 9 月 29 日（金）に大阪市で開催された同調査会の 2017 年度研究発表会において、奥村誠教授が約 120 名の聴衆に対し報告を行いました。東日本大震災後、被災地からは、都道府県を超える広域避難者が多数発生しました。彼らが被災地に戻るか、あるいは別の場所で生活再建を行うまでの間、被災家屋・家財の片付け、手続き等のために避難先から被災地に移動する必要が生じましたが、その移動における高速道路の利用を定量的に分析した内容を報告しました。復興庁による広域避難者調査と福島県の広域避難者の行動調査を軸に、モバイル人口統計データに基づく分析を加え、東北 3 県（岩手、宮城、福島）関係の高速道路を用いた広域移動が 1 日あたり 3 千トリップに及んだという試算結果を報告しました。



発表の様子（奥村教授）



会場の様子

文責：奥村 誠（人間・社会対応研究部門）